平成２８年度　経済建設委員会行政視察報告書

平成２９年２月７日（火）

経済建設委員　杉山　智騎

１．視察日程

平成２９年２月７日（火）

２．視察先及び視察内容

・愛知県知立市

知立連続立体交差事業及び知立駅周辺土地区画整理事業について

３．視察内容

■知立連続立体交差事業及び知立駅周辺土地区画整理事業について

２月７日（火）　１３：３０～

ｉ）愛知県知立市

人口７万人、面積 16ｋ㎡

日本武尊（やまとたけるのみこと）東征の帰途、国事平定を喜び祠を造営し、従者である伊知里生命（いちりゅうのみこと）を祠宮とし、そこから長い年月をかけて、地名の知立となった。平安末期三河より宮中に鯉鮒（こいふな）を献上したことから、地名も知鯉鮒（ちりふ）と用いられたこともあるとのこと。明治 4 年の廃藩置県当時、知立は 9 か村だったが、明治 39 年に合併して現在の市域となった。大正時代に入ると、国道 1 号線の改修工事や三河鉄道・愛知鉄道（現名鉄線）の開通などにより、西三河では岡崎に次ぐ経済・文化の中心地となった。昭和 45 年 12 月に市政を施行。

ⅱ）知立連続立体交差事業及び知立駅周辺土地区画整理事業について

知立市は、名鉄名古屋本線が東西に、名鉄三河線が南北に走っている影響で踏切は慢性的に渋滞が発生している状態です。ピーク時には 1 時間の内 47 分も踏切が下りていて、所謂、開かずの踏切になっています。こうした状況を解消して、都市交通の円滑化、踏切事故の解消が求められていました。さらに、連続立体交差事業に併せて、土地区画整理事業、街路事業及び市街地再開発事業を推進していく予定です。連続立体交差事業の大きな効果は下記 3 点があげられます。

・車や人の流れがスムーズになります
　道路と鉄道を立体交差化することにより、多くの踏切を一挙に除却し、車や人の流れをスムーズにします。
・まちづくりを促進します
　鉄道で分断されていた市街地は、連続立体交差事業と併せて土地区画整理事業などを実施することにより、魅力的で快適なまちに生まれ変わります。
・鉄道施設が改良されます
　駅施設の改良により、バリアフリー化など、安全性や快適性が向上します。また、ロングレール化や側道整備などにより、沿線地域の環境が良くなります。
総事業費：610 億円、施行期間：平成 12 年度～平成 35 年度、高架延長：総距離 4,980m。

ⅲ）所感
1 日の利用者が 60,000 人を超える総合駅の改修ということで、非常に興味がありました。平たんな駅を通常運行しながら、立体駅にするには、仮の線路を作り、その仮線を利用し、合計 6 ステップを計画し実施しています。沿線近くの住民には説明会を開き、理解を得てきていたが、実際に鉄道を利用している方々への説明は名鉄に任せて、車内放送や駅での周知にとどまっていた。簡単なビラを作り、乗り換えをしている人、知立駅で乗り降りをする人には周知をする努力をする必要があったと思います。仮線と本線をつなぐときなど、終電が終わってから始発が走るまでにやらないといけない作業の時は、約 300 人で 3 時間くらいで作業を終わらせて、試運転で安全を確認するなど最善の方法で作業を行なうところはさすがと言わざるを得ないです。知立連続立体交差事業によって踏切を 10 か所も除去できることは大きい成果です。市街地整備事務所の屋上には「みんなの力で、踏切のない街を」のキャッチコピーがありました。困っている人が多い案件なので、市民全員で進めていってほしいです。岡崎も慢性渋滞の箇所は多々あるので、前向きに対策を検討する必要があります。何の優先順位が高いかを見極めながら事業を推進してまいります。